

政治的意思決定とジャーナリズムによるサステナビリティの確保に関する包括的研究	
題目	IR3S/WISPJ の 2007 年度の活動成果並びに 2008 年度活動の進捗状況及び予定について
著者	早稲田大学院環境・エネルギー研究科・環境総合研究センター 教授 吉田徳久 〒367-0035 埼玉県本庄市西富田1011 Tel 0495-24-6049 toc_yoshida@waseda.jp

1. 研究の目的・概要

IR3S はサステナビリティ学の樹立を目指して、東大、京大等 5 つの参加大学と、早稲田大学等 6 つの協力機関が共同で進める研究機構である。IR3S 参加大学は、それぞれ得意な分野での持ち味を生かしつつ、サステナビリティ学の形成に貢献することが期待されており、早稲田大学は、豊富な研究業績をもつ「政治とジャーナリズム」の視点から、持続可能な社会を実現する道を探り、サステナビリティ学の樹立に貢献することとしている。なお本プロジェクトは 2009 年度までの 3 年間実施される予定。

2. 2007年度の取組と研究成果

白井総長をヘッドとするプロジェクトを環境総合研究センターに置き、三つのサブテーマ ①マクロ政治（国際政治）の視点、②ミクロ政治（国内政治）の視点、③ジャーナリズムの視点）について様々な活動を展開した。具体的には以下のとおりである。

- (1) ワークショップ「農業バイオ技術に見る欧州グリーン化」開催（2007.7.24 政経学術院会議室）
 - (2) シンポジウム「ジャーナリズムが見た環境問題」開催（2007.12.20 小野梓記念講堂）
 - (3) 国際シンポジウム「地球温暖化がアジア諸国に及ぼす光と影」開催（2008.1.30 井深大記念ホール）
 - (4) 廃棄物処理施設立地への市民合意形成過程等に関する研究会の開催（4回開催）
 - (5) 以上の活動成果を報告書として取り纏めた。
- なお、これら活動は平成 19 年度科学技術総合研究委託事業として実施されたものである。

3. 2008 年度の取組予定

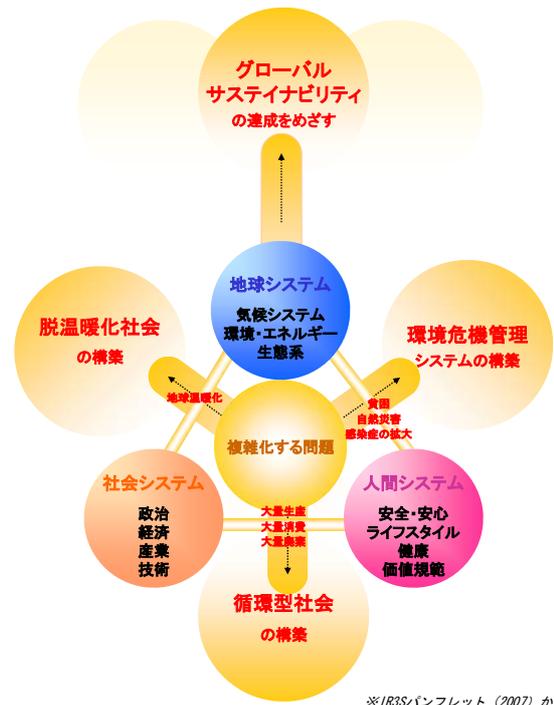
本年度から来年度にかけては、昨年度までの実績及びこれまでの学内の蓄積を踏まえ、学内の関係教員によるブレインストーミングを通じて、サステナビリティ社会形成と政治及びジャーナリズム論を体系的に取り纏める作業に着手することとしている。洞爺湖サミットに向けて世界の政治的モーメントが急速に高まってきたことから、特に地球温暖化問題を中心的なテーマとして作業を進める予定である。

また、6 月下旬に中国及び国内の環境ジャーナリスト等の協力と参加を得て、持続可能な農業等に関するワークショップを開催する予定である。

さらに、7 月には環境ジャーナリズムのあり方に関するシンポジウムの開催も予定している。

加えて、IR3S プロジェクトで重視されているサステナビリティ教育については、本学でもこれに着手すべく、本年度から学部学生を対象にしたオープン教育科目にテーマスタディ「戦略的環境研究」を設置したところである。ここでは、環境・エネルギー

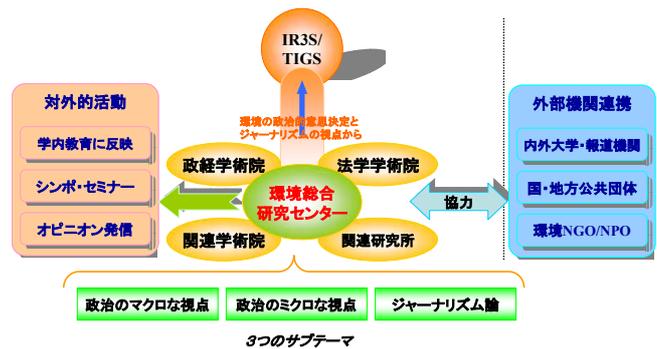
図-1 サステナビリティ学がめざすもの



※IR3Sパンフレット（2007）から

図-2 IR3Sへの早稲田大学の取り組み

～政治とジャーナリズムからの持続可能社会への挑戦～



一研究科が中心となって、サステナビリティ学入門講座など 4 つのコア科目を運営しているほか、学内の様々な箇所で開催されている 19 の選択科目の調整にも関与して、本学におけるサステナビリティ学の体系的な履修を推進しているところである。